

令和元年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告

標茶町立虹別中学校

学級数：4 (1) 学級 生徒数：18 (3) 人

【実践テーマ】

地域の保健師や学校医など、専門家と連携したがん教育を実践し、がんについての正しい理解と健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

外部講師との連携：「がんの予防につながる望ましい生活習慣、食習慣を考える」

○講師：市立釧路総合病院 がん専門看護師 沼田靖子 氏

○対象学年・人数：全学年・18人

(保護者、地域住民、他校教員等 21人)

○内容：

- ・がんと聞いて思い浮かぶこと
- ・がんのしくみ、原因から予防について考える
- ・がん検診について



(感想より)

- ・がんの原因や予防法などを知ることができた。これからいろいろな方法で予防したり、もっと知識を増やして、もしものための準備をしていきたい。
- ・がん検診を受けられる年齢になったら、必ず年に一度かそれ以上のペースで検診を受けて、早期発見できるようにする。

校内研修等

○対象：教職員

○内容

(第1回)・がん教育研修会(道教委主催)の還元

- ・事前評価アンケートの結果などから、がん教育の在り方を検討

(第2回)・事後評価アンケートの結果などから、生徒のがんに対する意識の変化を踏まえ、より効果的ながん教育の在り方を検討

※ 校内研修で検討した内容について、保護者、地域住民、他校教員に対して説明し、還元する機会を設けた。

成果と課題

○ がん教育を実施する前は、重要性や必要性の認識が高い状況ではなかったが、実施後のアンケートでは、根拠が明確となり、重要性や必要性について生徒の理解が深まったと考えられる。

特に、本実践では、がん検診に関する内容を中心に実施したことにより、検診に対する関心が高まった。

- がん教育実施後においても、がんに対する認識が十分ではない生徒がいることから、がんに対する正しい知識を身に付けさせるための手立てを検討する必要がある。また、がんになっても生活の質を高めることができることなど、多様な生き方があることについて理解を深める必要がある。

